

水稻の節水対策について(準備編)

- ◆ 吉野川水系及び那賀川水系のダム貯水率が低下しています。
水田への入水までに、ほ場の漏水対策や必要以上の入水をしないで良いように準備しておきましょう。

今から田作り(荒代かき)までの間にできる節水対策の準備

畦 の 確 認

- 畦が崩れたり変形していないか確認しましょう。
 - ・ 崩れた所から水が漏れたり、そこをきっかけに畦が壊れだします。
 - ・ 畦が変形すると低いところから水が漏れ出します。
- 畦に穴が空いていないか確認しましょう。
 - ・ 畦の周辺も含めて、モグラの穴がないか確認しましょう。
 - ・ ザリガニの穴がないか確認しましょう。
 - ・ 畦が崩れて水の漏れる亀裂がないか確認しましょう。
- 壁面のコンクリートの損傷を確認しましょう。
 - ・ コンクリートにひびや穴がないか確認しましょう。

今のうちに、
できることから
取り組みましょう。

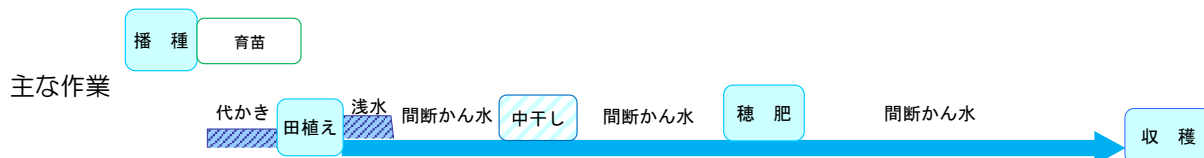


ほ 場 の 確 認

- ほ場を均平にしておきましょう。
 - ・ 均平にすることにより、必要以上の入水を避けることができます。
少ない水で代かきができるようになります。
 - ・ ほ場は周辺に土壌が溜まりやすく、すり鉢状になりやすいものです。
高い場所の土壌を低い場所に移動し平らにしましょう。
- 用排水路への穴や堰が壊れてないか確認しましょう。
 - ・ 用水路への配管やパイプが壊れたり折れたりしていないか確認しましょう。
 - ・ 用排水路への堰枠や堰板が壊れたり割れたりしていないか確認しましょう。
- 大型苗育苗の準備をしておきましょう。
 - ・ 渇水が続くと、田植え時期を遅らせる必要があります。
大型苗の育苗ができるように、薄まき等の準備をしておきましょう。

水稻の節水対策について

- ◆ 冬場の少雨により、吉野川水系及び那賀川水系のダム貯水率が低下しています。今後、農業用水の需要が高くなることを踏まえて、水量の抑制、制限等により、節水対策を心がけましょう。



効率的な水管理にかかる対策の提案

本田準備

- 丁寧なあぜ塗りや代かきにより、漏水を防止しましょう。
- 栽培期間を通じて節水に取り組み、品質向上を目指しましょう。
 - ・活着後は、浅水間断かん水を徹底しましょう。
 - ・有効分げつ確認後の中干しを徹底しましょう。
 - ・代かき期の節水により、出穂期以降の水を確保しましょう。

地域みんなで考えて、
できることから
取り組みましょう。



提案① 期間の短縮

- 田作り（荒代かき）から田植えまでの期間を短縮して節水に努めましょう。
 - ・代かきから田植えまでの期間をできるだけ短縮し、不要な落水をしない。

提案② 水量の抑制、制限

- 「小型苗」（育苗15～20日）と「浅水管理」により、節水しましょう。
 - ・小型苗の利用と浅水の管理による生育や品質の問題はありません。
- ※「小型苗」は、①少ない水での管理、②高い水温や低い気温、に強い特長があります。

提案③ 田植えの遅延

- 「大型苗」（育苗20～30日）の田植えにより、降雨を待ちましょう。
 - ・田植え時期に水不足となりやすい地域では、薄播き苗とし、育苗日数の延長に耐えうる育苗とします。
苗が肥切れした場合は追肥を行い苗の老化を抑えます。
 - ・大型苗は育苗中の老化を防ぐため、節水管理等により徒長を防ぐとともに、肥切れした場合は追肥を行い、寿命を延ばすように努めます。
 - ・田植え予定日を25日以上過ぎて苗質の劣化が著しい場合は播き直しましょう。